

氏名： 永原 恵三 (NAGAHARA Keizo)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
職名： 教授  
学位： 博士 (文学) (1999 大阪大学)  
専門分野： 音楽学、合唱指揮、声楽  
E-mail： nagahara.keizo@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

合唱音楽／キリスト教音楽／ドイツ歌曲／観光と音楽／合唱の発声法  
choral music / Christian music / German lieder / tourism and music / vocal technique of chorus

#### ◆主要業績

総数 (2) 件

- ・(合唱指揮) T.L.de Victoria "Missa O magnum mysterium", Coro Pange Lingua, 2008
- ・(合唱指揮) 次郎丸智希、合唱組曲『とある朝・・・』(初演)、コール淡水・東京、2009

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

- 1) 合唱指揮：ルネサンス音楽の特に宗教音楽について、トマス・ビクトリアの代表的なミサ曲である『ミサ曲 大いなる神秘よ O magnum mysterium』を全曲演奏した。
  - 2) 合唱指揮：日本の現代の合唱音楽として新進作曲家の次郎丸智希氏に男声合唱組曲を委嘱し、初演した。
  - 3) 合唱の発声法について、響きを中心にした従来のやり方ではなく、身体的な活動の結果、つまり息の結果としての声を開発。ルネサンス音楽と日本の現代の合唱音楽に特化して、とくに言葉の発音の明瞭性を検討。発声指導に大きな成果と評価を得た。
  - 4) 観光と音楽についての研究。国内外の研究を踏まえたツーリストアートについての研究。
  - 5) カトリックの聖歌に関する研究。教会の音楽監督としてオルガニストと聖歌隊指導を担当。
  - 6) テノール独唱者。ドイツリートをとくにシューベルトの作品を中心に研究。発声法と演奏法を大阪音楽大学名誉教授の永井和子氏のもとで研鑽している。
- 1) Choral conducting:performance of Renaissance polyphony, T.L.de Victoria, "Missa O magnum mysterium"
  - 2) Choral conducting:commission of the new composition for male chorus. Young composer JIROMARU Tomoki' s "Toaru ashita...", premier performance with chor Tansui-Tokyo.
  - 3)Development of a new method of vocal technique for chorus.
  - 4)Studies of tourism and music
  - 5)Studies of Christian music especially catholic church music as an organist and cappelmeister.
  - 6)Studies of German lieder as a singer, especially Schubert' s large repertoire of vocal composition.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

学部：

1, 2年生向けの音楽文化概論 I および音楽学概論 II で、音楽学の基本的概念、考え方、方法などを提示するとともに、西洋音楽史の中世からルネサンスまでの時代を英語の文献で概観する。3年生向けの比較音楽文化論では近年の音楽学文献（英語）を演習形式で輪読する。本年は Bonnie Wade “Thinking Musically” (2004)。4年生向けの比較音楽文化論演習では卒業論文作成のために毎回数人ずつ発表し、論文の内容を検討する。3年生向けの指揮法はグループレッスンだが、クラス全員が1回ずつ前で指揮をし、それにコメントをする。斎藤秀雄の方法を用いる。

大学院：

(博士前期) 音楽文献資料論(演習)は近藤教授と合同で修士論文に向けて全員のゼミ。音楽学特論(演習)は音楽学専攻の学生を中心としたゼミ。音楽学の近年の論文等を参考にして、各自の研究を発表。博士後期の学生も聴講するので20人強の受講生がいる。(博士後期)後期の学生のみでのゼミでは近年の英語論文を輪読。他に個人指導多数。

Undergraduate course:

musicology; lectures of key concepts and comprehensive knowledge of this field, and Western music history (medieval through renaissance period). conducting method.

Graduate course:

musicology(advanced and applied including ethnomusicology).

## ◆研究計画

- 1) 合唱における発声法の研究開発とその実践成果の公表(音楽教育学会)
- 2) 柴田南雄の音楽とくにその合唱作品を研究成果として単行本で刊行。(柴田南雄の軌跡—合唱音楽の新たな地平—)
- 3) カトリックの音楽に関する神学的研究(キリスト教礼拝音楽学会)
- 4) テノール独唱者として、ドイツリート、とくにシューベルトの作品を研究演奏する。
- 5) 日本の合唱音楽についての分析的作品研究
- 6) 世界の合唱音楽についての民族音楽学的研究。
- 7) 観光学の古典とされる D.MacCannel” The Tourist” の解説本を刊行(共著)。

## ◆メッセージ

私は音楽学者と演奏家との二足のわらじを履いています。西洋音楽ではバロック以前の音楽と古典派、とくにキリスト教の合唱音楽を中心に研究しています。演奏家としては西洋音楽を専門としていますが、音楽学者としては、西洋だけでなく諸民族や国内の民謡と民俗芸能にも関心を持ち、それらに応じた研究の仕方や研究成果を学び、またそれを学生の皆さんと共有しています。

合唱における発声法については、従来と異なる、言葉の明瞭な発声を研究開発し、その成果が出ています。

お茶の水女子大学の音楽学は日本でも有数の研究拠点で、学会でも高く評価されています。大学院のゼミは実にさまざまな分野と年齢の音楽研究を志す人々が集まり、熱い議論をして切磋琢磨しています。

音楽について、しっかりと考えて、研究し演奏していく姿勢をもっている人に、来ていただきたいと思っています。音楽は感性だけで生まれるものではなく、人間の知的活動の産物であることを、忘れてはならないと思います。